
伝文

日本口承文芸学会 会報

第72号 2023年2月 発行

日本口承文芸学会

〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25

白百合女子大学人間総合学部 間宮史子研究室

Tel: 03-3326-5144 (内線 1207)

Fax: 03-3326-1319 (児童文化研究センター)

E-mail: info@ko-sho.org

「語り手論」の行方

大島 廣志

口承文芸とりわけ昔話の研究者として知られている野村純一が亡くなってから、早16年になろうとしている。昨年12月に小川直之編『野村純一、口承文芸の文化学』（アーツアンドクラフツ刊）が出版され、野村の業績が新たな視点から再評価されていることもあり、改めて野村の「語り手論」の今日性について考えてみたい。

野村は「作家に作家論があるように、語り手には語り手論がある」と言い、語り手の出生から現在までの生活環境がその管理する話と深く結びついていると指摘した。この「語り手論」について前掲書の中で伊藤龍平氏は「昔話の来し方を考えるうえでも行く末を考えるうえでも、野村の語り手論は大きなヒントを与えてくれている」（「語り手の系譜論とその意義」）とその重要性を述べている。

筆者はかつて野村に「語り手論」において基本的にふまえることは何かと質問したことがある。野村は「その語り手がどういう家に生まれて、お父さん、お母さん、お婆さんたち、家族の人たちはどんな暮らしをしたのか」「語り手が聞き手であったところからの生活史を、その人間の成長過程にそってとらえていく」（『季刊民話』第4号、1975、民話と文学の会）と答えた。「語り手論」の基本を述べているのだが、今日の社会状況を考えて、この野村の「語り手論」はいくつかの越えなければならぬ課題があるように思える。

1つ目は、「語り手論」成立の要件は言うまでもなく語り手の存在である。伝承の語り手がいなくなった段階で、「語り手論」は成立するのであろうかという点である。

2つ目は、現在、お話しボランティアとして活動しているたくさんの語り手がいる。方言が使えるので、本の昔話を方言に直して語っている語り手に「語り手論」は適用できるのか。野村の言う基本的事柄をふまえるには相当に難しいと言わねばならない。

3つ目は、個人情報の問題である。伝承の語り手であれ現代の語り手であれ、語り手の系譜や生活史を公にするハードルは高い。

つまり、「語り手論」は、野村の「語り手論」を深化させ、新たな社会における語り手に対応する「語り手論」を構築する時期にきているのではないだろうか。

野村は「そりゃあ、君」と言うかもしれないが。

（東京都）

シンポジウム「幻の動物をめぐる世間話—ツチノコを追って—」

伊藤 龍平 (神奈川県)

2022年10月15日(土)、日本口承文芸学会第82回研究例会が開催された(オンライン形式)。テーマは「幻の動物をめぐる世間話—ツチノコを追って—」で、記録映画監督の今井友樹を招き、会員二名(今井秀和、山川志典)を加えた三名のパネリストによるシンポジウム形式で行なわれた。当日のプログラムは、以下の通りである。今井友樹の報告内では、監督作品『榎の子物語—東白川村の目撃談—』の上映も行なわれた。

今井秀和「現代における「幻の動物」略年譜」

今井友樹「映画『榎の子物語—東白川村の目撃談—』とツチノコをめぐる」

山川志典「世間話研究から読み解く『榎の子物語—東白川村の目撃談—』」

司会・コメンテーター：伊藤龍平

今井秀和は、従来の「未確認動物」という概念を、絶滅動物・希少動物などを含めた「幻の動物」として捉え直すことを提唱した。そのうえで、近現代の日本における「幻の動物」の略年譜を著した。年譜では1970年代前半と80年代後半の二度にわたるツチノコブームが取り上げられ、その性質の違いが指摘された。また、インターネット時代の「幻の動物」の在りようについても言及された。

今井友樹は、自身が「ツチノコの里」である岐阜県東白川村出身であることから、地元住民の視点から見たツチノコ(現地の言葉では「ツチヘンビ」)についての報告がなされた。その際、成人して村を離れた結果、ツチノコに対する見方が変わったことが述べられた。また、映画『鳥の道を越えて』(2014年)を撮影した経験から、撮影できないものを捉える方法として、人々が記憶を語る様子を撮ることを今作でも意識したと述べた。

山川志典は、世間話の種としての「動物」に着目した。そして話の内容だけではなく、話を共有する人々の考え方・感じ方を理解することの重要性を強調した。また、『榎の子物語』を「幻の動物」の目撃談をめぐる映画と位置づけ、登場する話者たちを例に、世間話の場を撮影し映像記録とすることの研究上の意味について述べた。その際、従来の民俗調査と映像の関連についても言及した。

伊藤龍平は、コメンテーターの立場から、今回のシンポジウムのテーマを敷衍して、世間話における奇事異聞の意味について述べた。

フロアからの発言も活発だった。「なぜ「幻獣」ではなく「幻の動物」なのか」といった質問や、自然科学と人文科学における対象との向き合い方の違いなどの意見が出された。

今後、新たな展開を見せる可能性のある分野であろう。



伊豆の国市発「昔話の部屋」ー鈴木暹さんと昔話の50年ー

神田 朝美 (神奈川県)

私が勤務する博物館では2019年3月まで、移築古民家の囲炉裏端で昔話語りを定期的に開催していた。文化財を活用し地域文化の掘り起こし・紹介を行う普及啓発事業であるが、観光客や大多数の職員にとってはアトラクションのような存在になっていた。この事業は2019年4月以降、COVID-19感染拡大により3年間中断された。全国の公共施設でもこの時期に同様の催しが中断を余儀なくされた。中断した昔話語りに替わり、新しい試みも各地で行われた。例えば過去の昔話語りのオンライン配信などであるが、ここで紹介する静岡県伊豆の国市在住の鈴木暹さんによる「昔話の部屋」は、その先駆的な存在である。

口承文芸研究に関わっていれば、鈴木さんの名を知っている人は多いはずだ。『全国昔話資料集成30 伊豆昔話集』(岩崎美術社、1974)は鈴木さんによって編まれた。小学校の教員をしていた1970年代から静岡県内・伊豆地域を中心に岐阜県旧徳山村や山梨県南部町でも聴き取りを行っている。その貴重な音源を積極的にCD・DVD化し、翻字した記録は昔話集として出版してきた。その鈴木さんがYouTubeで昔話や民謡を公開し始めたのは2015年まで遡る。2017年にはHP「昔話の部屋」を開設。その経験から2022年3月にオンライン「昔話の部屋」が始まった。「昔話の部屋」では、鈴木さんが直接話者から聴いた話を、原話を生かしながら話の筋を違えず、かみ砕いた表現で語る。収録した昔話・民謡・災害の体験談などの紹介もされる。

「語りの部屋」はZoom版とそれを収録したYouTube版がある。Zoomミーティング「昔話の部屋」では、参加者は聴くだけでなく自分の疑問や意見を直接語り手に投げかけられ、今日では千葉や福島など遠方からの参加者も増えている。また、YouTubeライブ「昔話の部屋」も、昔話や話者への思い、語り方、話の背景などの解説が入る。2022年12月30日現在で125話の動画が配信され、YouTubeライブは第10回まで公開されている。オンライン「昔話の部屋」は、FacebookやLINEで参加者を募り、ライブ配信の情報が提供される。FacebookやLINEでも昔話に対する質疑応答や書誌情報などの提供、本人や他の語り手の近況報告が活発に交換されている。

鈴木さんは2022年10月から「伊豆日日新聞」で隔週日曜日に「伊豆のむかし話」を連載中のほか、「伊豆の国昔話をまとめる会」主催の昔話語りでも語り手も務めている。さらに、現在も聞き取りを続けている。1943年生まれ、今年80歳になる鈴木さんの活動には頭が下がる思いだ。ご興味がある方は、まず、HP「昔話の部屋」

(mukashibanasi.wordpress.com)

をご覧ください。



事務局便り

○会員の異動（敬称略・五十音順）

《新入会》加藤崇人（東京）・宮田穰（東京）

三省堂書店北東京営業所（購読会員）・武蔵学園生協購買書籍部（購読会員／全国大学生協連合会の図書サービス業務終了により）

《退会》 清海節子（埼玉）

《逝去》 入江英弥（青森）

○受贈書籍（2022年9月～2023年1月受け入れ）

・神奈川大学日本常民文化研究所『民具マンスリー』第55巻4号～9号 2022年7月～12月

・日本民俗学会『日本民俗学』第311号 2022年8月

・小堀光夫『菅江真澄と伝承文学』岩田書院 2022年8月

・後藤明編『大林太良 人類史の再構成をめざして』（やま かわ うみ叢書）アーツアンドクラフツ 2022年9月

・小川直之編『野村純一 口承文芸の文化学』（やま かわ うみ叢書）アーツアンドクラフツ 2022年12月

○日本口承文芸学会事務局

〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25

白百合女子大学人間総合学部 間宮史子研究室

Tel: 03-3326-5144（内線1207）／ Fax: 03-3326-1319（児童文化研究センター）

E-mail: info@ko-sho.org

日本口承文芸学会を広くご紹介下さい

日本口承文芸学会への入会を希望なさる場合は、事務局にご連絡いただくか、学会HP (<https://ko-sho.org/>) から入会申込書をダウンロードして、ご記入のうえお送りください。

入会金なし、年会費 4000 円です。郵便振替口座 00180-4-44834 をご利用下さい。